

# 大連名所案内

2019年5月  
在瀋陽日本国総領事館  
在大連領事事務所

## 1. 旧満鉄本社(現大連鉄道有限責任公司)

1909年竣工。古典建築。1907年4月、満鉄本社は東京から大連へ移転したが、その直後は帝政ロシアが建設していたダーリニー市政府の建物を使用していた。その後今の場所に移転、1945年まで満鉄本社として使われた後は中国の鉄路分局として利用された。

## 2. 大連大学附属中山医院(旧大連市鉄路医院/旧満鉄大連病院)

中山医院は1914年に建築が始まったが、第一次世界大戦の影響を受け、二棟の病棟しか完成できなかった。(奥にある赤レンガの建物)その後1921年、北京にロックフェラー財団寄付による協和医院が建築されると、満鉄もその影響を受けて再び中山医院の建設を開始した。設計と施工はアメリカのフラー社に委託したが、中国人や朝鮮人・日本人が働く現場に戸惑い、途中で去っていった。本館が竣工したのは、1925年になってからである。サンルームや中庭のある当時としてはとても近代的な病院で、今でも総合病院として使われている。

## 3. 大連港客船埠頭

満鉄が経営を任せられ、帝政ロシアの計画を引き継いで港湾建設を進めた。岸壁の長さが4キロにも及ぶ東洋一の港湾だった。客船待合室は海へ突き出た形をしており、当時満州への玄関として満鉄が力を入れた建築。現在は改装されてあまり当時の雰囲気が残っていない。

冬なお凍らぬ天然の良港は中国東北の玄関として重要な役割を果たしている。現在客運は上海、青島、対岸の煙台、威海など国内各地の他、韓国の仁川にも就航している。

埠頭に隣接する商業施設「十五庫」は日本租借時代の保税倉庫(甲埠頭第十号倉庫:1929年)をリノベーションしたもの。



▲大連港客船埠頭

## 4. 港務局(旧大連埠頭事務所)

1920年第一期竣工。1926年第二期竣工。ルネサンス様式建築。満鉄時代に建設されたもので、船で大連へ着いたときに真っ先に目に入る目印的な建物だった。

## 5. 人民広場

市政府正面にある芝生のきれいな広場。ロシア時代はスターリン広場と呼ばれ、その後長者町広場、人民広場と名前を変えた。国旗掲揚台のある位置には元々ソ連の解放塔(参戦記念塔)があったが、1999年の大連建市100周年(建市は1899年9月19日)と建国50周年の際、平和の時代にそぐわないという理由で解放塔は旅順へ移され、国旗掲揚台と、音楽に合わせて水の高さやライトの色が変化するミュージック噴水が作られた。

展示場面積が700㎡に及ぶ大連市企画展示センターでは、大連市都市建設における歴史の変遷等が一般公開されている。



▲人民広場

## 6. 大連市人民政府庁舎(旧関東州庁舎)

1937年、旅順から大連に移築した。関東州とは、元々は万里の長城の最東端、山海関より東を指し、現在の東北三省にあたるが、当時は遼東半島の南部(大連、旅順を含む)が関東州と呼ばれた。

## 7. 大連市中級人民法院(旧大連地方法院)

1930年竣工。東京大学安田講堂を思わせるデザインは、それと同じく不園真助の設計によるもの。地上3階地下3階で、中央の突出部分をセンターとし、左右対照をなしている。外壁に縦状の装飾を施すことにより、荘厳さが増している。1993年3月に「市級文化財保護建築」、「遼寧省優秀建築」に選ばれた。

## 8. 大連市公安局(旧警察訓練所)

1930年竣工。当時大連市は、西通り32号にあった「民政署」の管轄であったが、「民政署」の権限は限られていた。当時の中国において最高行政機関であった「関東州庁」及び「警察本部」は旅順にあったため、色々と不便であった。そこで、「関東州庁」警察本部の特等刑事課・経済警察課・外事課などが、「警察本部」より先に大連に移り、この建物の中に事務所を設立した。「関東州庁」警察本部の支部のような存在であった。その後、「警察本部」も大連に移ってきたが、「関東州庁」庁舎内で事務処理を行っていた。「特等刑事課」は、「特別高等警察課(特高課)」に改称され、この建物は終戦まで特高課の事務所だった。

## 9. 大連駅

廬溝橋事件勃発の1937年竣工。日本の上野駅をモデルとして建設された。2階の出発待合室から改札をくぐり1階ホームに降りて乗車し、下車した乗客は地下通路を通過して1階出口から出てくるといふ人の流れは当時も今も変わっていない。もともと駅前広場には何も建っていなかったが、2000年老朽化の激しい現駅舎を建て直す計画が始まり、駅東側スロープの一部が取り壊され青い屋根の仮設待合室が建てられた。しかし、2001年2月市政府が大連駅を歴史的建造物として保存すると決定し、取り壊しはストップした。現在、旅客の増加に伴い待合室が手狭になっていることから、現大連駅の改修を進めると共に駅裏に乗客待合室が増築された。



▲大連駅

## 10. 秋林女店(旧三越百貨店)

1935年竣工。新古典様式。駅前に位置し、時計台が目印。元々レンガ色だったが現在は灰色に塗装され、女性服飾品の専門店になっている。

1937年に出来た三越百貨店大連支店がその前身。1945年ソ連がこの三越を戦利品として接收し、「秋林公司」(チューリン)と改名。当時は大連だけでなくハルビンや瀋陽など東北地方各地に秋林公司があったらしい。1953年ソ連はこれを有償で中国に引き渡し、中国の国営百貨店となった。

## 11. 星海広場

アジア最大の都市広場で、1997年香港返還を記念して建設された。広場の中心にあったシンボル「華表」は2016年に突然撤去された。

## 12. 星海公園(旧星ヶ浦海水浴場)

かつて星ヶ浦と呼ばれた海水浴場。現在は公園として整備されている。東の丘には探海洞という海へ続く洞窟があり、天から星が降ったという伝説にちなんだ星岩が置かれている。浜にはバラ園・遊園地などがある。香港と大連の合併で作られた水族館(聖亜海洋世界)には118mの動く歩道付



▲星海広場

きの水中トンネルがあり、家族連れの人気スポットである。公園では海水浴も出来、夏は老虎灘あたりまでボートが出ている。

### 13. 旧南山麓(七七街、南山街付近)

七七街や南山街の一带は当時南山麓と呼ばれる高級住宅地で、現在でも日本風一戸建ての住宅が残っている。当時大連在住日本人は欧米化の影響を受けており、住宅は洋風の造りになっている。南山賓館別荘近くに残っている元・河本大作邸は98年3月まで当事務所が入っていた建物。

2000年に南山地区・楓林街保存型再開発計画として大連南山旅遊風情一条街の工事が行われた。もとあった日本住宅を取り壊し、あらたに日本風情あふれる(実際は洋風なので日本の風情はない)家屋を再建した。ロシア街の建設に並んで、日本街「日本風情一条街」の建設が計画されていたが、近くに共産党委員会があるため(党委の建物も日本統治時代のもの)、名称から「日本」が削られた。



▲旧南山麓

### 14. ロシア風情一条街

日露戦争以前には勝利橋西側の一带にはロシア人がたくさん住んでいた。ドイツ風の建物が多いが、これはロシア人がドイツ人の建築家を連れて来ていたため。

大連市は老朽化した建物を取り壊してここに当時のロシアの町並みを再現。全体設計は大連企画都市建設設計院とロシアハバロフスク国立技術大学建築設計院が共同で行った。全長430メートル、総面積3.7万㎡のロシア風情一条街は半年足らずで竣工し、2000年10月1日オープン。一番奥の建物は旧ダーリニー市政庁。



▲ロシア風情一条街

### 15. 大連芸術展覽館(旧東清鉄道汽船会社)

1902年竣工。勝利橋を渡った正面にあるドイツ風レンガ作りの建物。住宅として使われていたが老朽化したため1997年友好都市の北九州市が改修し、その後美術館としてオープンした。北九州門司市にも同じ建物が建てられている。

### 16. 勝利橋(旧日本橋)

帝政ロシアが架設した木造の橋を1908年に関東都督府が鉄筋コンクリート製に掛け替えたもので、戦前は大連一長い橋だった。この橋から先は、当時ロシアが行政市街区として建設していた。橋の外側には彫刻が施されているが、交通量の増加と老朽化により1992年に橋の両端に歩道が増設されたためこの彫刻は見えなくなってしまった。

### 17. 旧大連自然博物館(旧ダーリニー市政庁・満蒙資源館)

1900年、東清鉄道の事務所として建てられた。ダーリニー市政府として使われた後、日本租借時代には満鉄本社やヤマトホテルとして利用された。ヤマトホテル時代には、伊藤博文や夏目漱石もここに宿泊した。その後、満蒙博物館となり、中国の統治に戻ってからは大連自然博物館として使われていた。

### 18. 麒麟舞台(旧東本願寺)

日本租借時代の寺院がそのままの姿で残る貴重な建築物。現在は大連の京劇団が利用している。終戦時、当時の満鉄図書館からの書物が運び込まれてここで放置されたのち、改革開放と共に整理が始まり、現在の市図書館に移されたという。

西本願寺の方は旧大連外国語学院の場所にあった。

### 19. 天津街(旧浪速町)

もともと呉服屋や靴屋などがならぶ商店街だった。その後も商店街としてにぎわい、1983年から歩行者専用道になった。

### 20. 緑山テレビ塔

高さ190.5m、海拔360.5m、1989年竣工。新日本製鉄の技術協力により建てられた中継塔。CC TV・東北地方の主なテレビ、ラジオ放送を中継している。

テレビ塔からは大連市内が俯瞰できる。緑山中腹(勝利路・労働公園の北側)に展望台があり、ここからでも市内を一望することが可能。

### 21. 濱海路

星海広場から海之韻広場までの海浜ロード。4区間に分かれており、それぞれの見所は以下の通り。

- ①星海広場～付家荘…アカシアが多く植えられ、5月末には良い香りが漂う。
- ②付家荘～老虎灘…北大橋、燕窩嶺、老虎灘公園など、見所が多い。日本人学校が丘の上にあった。(民航療養所内)
- ③老虎灘～棒棰島…「大地の子」の撮影が行われた場所や棒棰島も見え、景色がきれい。
- ④棒棰島～海之韻広場…濱海路の中で最後に作られた道路で、下りなのにアクセルを踏まないと進まず、登りなのにアクセルを踏まなくても登れるという“怪坂”がある。海之韻広場は大連で最もきれいな日の出が見られる。

### 22. 老虎灘

海に突き出た岩が虎に似ていることからその名が付いたとする説や、その昔ここで虎におそわれそうになった人魚を漁師の青年が助けたからだとする説などがある。遊園地や軍艦の展示、水族館、鳥園がある他、夏にはボートで棒棰島などへ遊覧する事ができる。海水浴場もある。



▲老虎灘

### 23. 北大橋

老虎灘から付家荘までの途中にあり、北九州市と大連市の友好都市5周年を記念して1984年に架けられた。結婚記念写真撮影のメッカで、吉日には多くの新婚カップルが撮影を行っている。

### 24. 大連森林動物園

広い敷地内に動物の檻が点在しており、ジャイアントパンダ、東北虎、金糸猴、白サイなどがいる。2000年秋にはサファリパークも開業し、55種類2千頭の動物が放し飼いされており、その中にはホワイトタイガーもいる。

### 25. 星海湾大橋

高新園區と市内中心街(全長6800メートル)を結ぶ星海湾大橋は2015年に開通した。各4車線、上下2段構造となっており、夜はイルミネーションが灯され、新たな観光スポットとして注目されている。



▲星海湾大橋



▲大连市地图(番号は各名所に対応。)



▲市中心部(番号は各名所に対応。)

## 26. 中山広場

帝政ロシアがパリをモデルに建設した広場で、最初はニコライフスカヤ広場と呼ばれていた。帝政ロシアは行政市街・ヨーロッパ市街・中国市街に分けて市街地を設計したが、ニコライフスカヤ広場はヨーロッパ市街にあたる。最初に建築が始められた行政市街は、今の勝利橋から旧自然博物館(元ダーリニー市政府)の辺りで、ロシア時代の建築物がわずかに見られる。その他の市街地は、日本が占領した1905年当時まだ道路しか出来ていなかった。その後日本人によって次々と建築が開始され、ニコライフスカヤ広場は大広場と呼ばれるようになった。



▲中山広場

中山広場周囲には日本租借時代の建築物が建ち並んでいる。以下、大連賓館から順次時計回りに紹介。

### ① 大連賓館(旧満鉄ヤマトホテル)

1914年竣工。ルネサンス様式建築。満鉄直営のホテルであるヤマトホテルの旗艦店だった。ヤマトホテルは、当時東北地方のあちこちに作られ、今でも旅順、瀋陽、長春、ハルビンなどに残されている。



▲大連賓館(旧満鉄ヤマトホテル)

### ② 旧イギリス領事館跡

1995年に取り壊されており、2001年に上海浦東発展銀行となった。なお、裏側にはイギリス領事館時代の附属教会が残っている。

### ③ 遼陽銀行(旧大連民政署・大連警察署・大広場警察署)

1908年、大広場に最初に竣工した、レンガ造りの建物。

### ④ 工商銀行(旧朝鮮銀行)

1918年竣工。古典建築。正面にコリント式オーダーが並ぶ。オーダーは美しいが、後ろの本体が釣り合っていないとも言われる。朝鮮銀行は、当時日本が植民地としていた朝鮮の第一銀行で、満鉄社員の給料も朝鮮銀行券で支払われていた。

### ⑤ 大連市郵政局(旧関東通信局)

1924年竣工。折衷主義建築。広場を挟んで向かい合っている旧大連市役所と同じ松宝重光による設計。

### ⑥ 中国銀行(旧横浜正金銀行)

1909年竣工。明治時代の日本を代表する建築家・太田毅による設計で、東北地方でも一、二を争う本格的西洋建築。バロック様式のドームが美しい。太田はこのほか大連賓館・満鉄本社等を設計した。1999年、火事で内部が焼失したが修復。



▲中国銀行(旧横浜正金銀行)

### ⑦ 人民文化クラブ

1951年竣工。時々音楽会などが開かれている。



## 27. 旅順

旅順口区の人口は21万人、面積は約500K m<sup>2</sup>。年間旅行者は約120万人で、このうち日本人旅行者は約2万人である。

新中国成立後、旅順は1954年までソ連軍が使用、その後人民解放軍の北海艦隊基地になり、『未開放区』として外国人の立ち入りが禁じられてきた。1996年7月から、水師営、203高地、旅順新港、開発区を含む一部地域が開放され、現在、旅順口区の外国人入域規制は大幅に緩和されているが、軍事関連施設が多いことから、立ち入りや写真撮影の際は、軍が管理する施設には入らない、撮影しない等の注意が必要である。



▲旅順港

### ①水師営

清朝康熙帝の時代、ここに水師営を設置したのが地名の由来である。日露戦争時には、日本軍が水師営の劉という農家を、病院として使っていた。

1905年1月2日、ロシア軍のレイス参謀長と日本軍の伊地知参謀長はここで『旅順開城規約』に調印し、旅順での戦いは停戦をむかえた。

規約調印から3日後の1月5日、乃木希典大将とステッセル中将の会見が行われた。乃木将軍は、時計が遅れていたせいで30分も遅れて到着したが、会見は2時間にも及んだという。この時、ステッセルから乃木将軍にアラブ産の白馬が送られ、庭のナツメの木につながれた。(このナツメの孫木は大正時代日本へ持ち帰られ、現在、熱海市と伊豆を結ぶ横断道路の両側に植えられている。)

97年には、当時の農家が観光施設として復元された。中は日本軍控え室とロシア軍控え室に分かれており、手術台として使われたという台と布が展示されている。ナツメの木も、小屋の前に新しく植えられた。

旅順戦は、クリミア戦争に似ているといわれる。クリミア戦争では、ロシア軍がクリミア半島の要であったセヴァストーポリ要塞を、349日間守ったという記録があるが、旅順戦でステッセルは、バルチック艦隊の到着まで旅順を死守できず、155日間の籠城にとどまった。そのため、ステッセルは帰国後の軍法会議で死刑を宣告されたが、結局は禁固刑となった。



▲水師営

### ②二〇三高地

日露両軍が、最も激しい攻防戦を繰り広げた場所。銃弾型の慰霊塔が建てられ、渤海側の斜面には、ロシア軍、日本軍の塹壕がそれぞれ残っている。晴れた日には、頂上から旅順港全体を見渡すことが出来る。ここでの戦闘は、1904年9月19日、日本軍が最初の攻撃を仕掛けてから12月6日までの4ヶ月弱にわたった。

占領後はここに観測所を置き、後方の高崎山に設置した砲台から旅順港のロシア艦隊を砲撃した。

頂上の慰霊塔には、乃木将軍の書で「爾靈山」の文字が記されている。これは同将軍の次男保典が戦死した時、将軍が詠んだ詩の中で、「203」を「爾靈山」の漢字に置き換えて用いたものである。

爾靈山陰豈難攀 (爾靈山の陰豈攀るに難からんや)  
男子功名期克艱 (男子功名克艱を期す)  
鉄血覆山山形改 (鉄血山を覆い山形改る)  
万人齊仰爾靈山 (万人齊しく仰ぐ爾靈山)

渤海側の斜面には、乃木保典(やすすけ、当時少尉)の戦死場があり、石碑があるが、これは1990年代に再建されたレプリカ。説明には、乃木少尉が203高地を攻め上っている時、ロシア軍によって撃たれた、との記述がある。実際には電話線が切れたことを報告に行き、その帰りに単独で駆けていたところを撃たれたそうである。彼の兄、勝典(かつすけ)中尉も南山(金州の南)の戦いで戦死しているため、乃木將軍は2人の息子を日露戦争中に失ったことになる。

旅順港の左手、老鉄山の方向が、渤海と黄海の境界である。老鉄山の少し左手には鳥島があり、冬には北からの渡り鳥が集まるといふ。

渤海側には蛇島が見えるが、0.8K㎡の小島に1万匹余りの蝮が生息する。これまで神秘の島と呼ばれてきた蛇島だが、99年4月から船で行くことができるようになった。

また、慰霊塔の傍らには古い機銃が置かれているが、これは後世のものである。

203高地のすぐ隣には老虎溝山(赤坂山)があり、ここは203高地がおちた後にロシア軍が自主撤退したところである。山頂の石碑は、ここを攻撃した日本の部隊の功績を称えたものである。

203高地は駐車場から頂上までは徒歩で約10分。下りは、来た道をそのまま下っても良いが、ロシア軍塹壕跡の標識がある石段を下りていくと、乃木保典の戦死場があり、そのまま下ると駐車場に出る。



▲二〇三高地の慰霊碑

### ③ 旅順駅

白玉山景区西部に位置する特別な作りの駅舎でロシアの風格を持つ建築物。1900年竣工。市級文物保护单位に指定されている。2014年、貨客列車の運行が休止された。

### ④ 白玉山塔

白玉山塔は日露戦争が終結後、日本海軍大将東郷平八郎と陸軍大将乃木希典の提案で造られたもので、当時2万人の労力を用いて1907年6月に着工し、1909年11月に完成した。塔の高さは66.8mで、塔内には24階の螺旋階段があり、21個の窓をもうけられた。塔の基盤に用いた石のほとんどは乃木希典の故郷である山口県徳川から運ばれた花崗石。また山頂からは旅順口軍港と市街地の風景を一望できる。

### ⑤ 旅順博物館

旅順博物館は帝政ロシア時代には「将校クラブ」と呼ばれていた。1917年に関東都督府によって「関東州満蒙物産館」として創設された。そして1954年に「旅順歴史博物館」と命名された。博物館には6万点余の資料が収蔵されており、1300年前のミイラも陳列されている。



▲旅順博物館



▲旅順地図(番号は各名所に対応。)

### ○大連における国家A級観光地(参考)

(国家 A5級観光地)

- ・大連老虎灘海洋公園
- ・金石灘国家観光リゾート区

(国家 A4級観光地)

- ・森林動物園
- ・現代博物館
- ・自然博物館
- ・旅順日露監獄旧址博物館
- ・旅順校区白玉山
- ・旅順東鷄冠山 など他 13カ所

(了)